

## 令和6年度第2回精華町男女共同参画審議会摘録

令和6年8月21日(水)  
午前9時30分～  
役場5階501・502会議室

### 1. 開会

【事務局】令和6年度第2回精華町男女共同参画審議会を始める。

【片上会長】<あいさつ>

(新委員自己紹介)

【事務局】<資料確認>

### 2. 議事

【片上会長】それでは、これより会議を進める。本日の出席委員は13名中8名、3名より委任状をいただいている。精華町男女共同参画推進条例施行規則第10条第2項の規定により、出席委員が過半数を超えているため審議会が成立していることを報告する。

それでは次第に従い、これより議事に入る。(1)「第3次精華町男女共同参画計画策定にむけて」精華町男女共同参画計画素案について、説明願う。

【事務局】<第3次男女共同参画計画素案の本文の変更点について、精華町男女共同参画計画素案について説明>

【片上会長】ご意見、ご質問はあるか。

【藤田委員】新素案では指標を前に出しているのはわかりやすいが、これが後ろの施策のどこに係っているのか、わかりにくい。可能であれば、どの施策に関係しているのか一目でわかるような文言があれば良いと思った。

【片上会長】どこから引っ張ってきたか、関連づけているのかがわかれば良いということか。

【藤田委員】そうである。例えば、目標だけを見るのであればここだけを見れば良いし、細かい内容を見ようと思えばここを見れば良いということがわかると良い。

【片上会長】事務局はどうか。私は、旧素案と新素案が直接関連しているものは少ないので、これで良いと思った。どちらかといえば、旧素案は目標がはっきりしてい

る。新素案はこれからのアバウトな部分で、直接合致する部分は少ないと思いつながりながら見ていた。

【事務局】ご意見について、わかりやすくなるように表示を検討したい。

【片上会長】他にご意見はあるか。

【事務局】委任状をいただいている早樫委員から変更点についてご意見をいただいております、新しいほうで良いのではないかとのことである。

【吉井副会長】「具体的な取組と概要の」担当課名の入った太かっこは、外さないほうが担当課が明確にわかって良いと思っているが、最終的に外すのか。

【事務局】担当部署が右側の枠にあり重複するので、外す方向で考えている。

【片上会長】全部まとめて担当部署と書いてしまうと、どの施策をどこの部署が担当するのかわかりにくくなるので、私はこのまま残しておいても良いと思う。

【藤田委員】欄で区切ったほうが良いのではないかと。担当部署はわかるようにしておいたほうが良い。

【片上会長】項目が多いところほど線が多くなる。今回それで省いて太かっこを残した経緯がある。

【藤田委員】どちらか見やすいほうで良い。

【吉井副会長】担当課はわかったほうが良い。

【事務局】今の見せ方であれば、どの施策をどこの部署が担当するのかがわかりにくいので、見せ方を工夫したほうが良いのではないかと、というご意見か。

【吉井副会長】事務局は担当課がわかると思うが、誰が見てもわかるようにしてもらえると有難い。

【片上会長】そこは見やすくなるように、再度検討願いたい。

審議会はあと一回しかなく今回の会議は山場であるので、意見をいただきたい。

【藤田委員】35ページの下は担当部署が全て「教育支援室」なので、まとめたほうがわかりやすいのではないかと。横のコメントはコンサルタントが書いたのか。

【吉井副会長】コメントに株式会社サーベイリサーチセンター萬関と書かれている。コメントは我々にというよりは、精華町に向けたものである。

【藤田委員】旧様式ではたくさん目標があったが、それが少なくなったようにも見える。少なくなったわけではないという理解で良いか。

【事務局】既に達成しているため、載せないものも少しはあるが、基本的には表現だけを変えている。

【藤田委員】23ページの「第2次計画の指標の達成状況」は、達成基準を超えて達成したものはもっと高い目標にして、達成できていない点は再調整したほうが良いのではないか。

【事務局】目標数値が同じ取組については、同じ数値ではなく見直しをするために各課と相談しているが、まだ全てを反映できていない。

【藤田委員】別で対応表のようなものは載せられるのか。この5年間の取組内容や、これから先の目標などが見えるものがあるほうが良い。

【事務局】「第2次計画の評価と課題のまとめ」はあるが、数値の達成状況を並べるということは、今のところはしていない。

【吉井副会長】第3次計画の目標数値は同じということであるか。

【事務局】目標数値が同じ取組については、同じ数値ではなく見直しするために各課と相談しているが、まだ全てを反映できていない。この中で、例えば「父子手帳の配布」や「啓発冊子の配布」等、事業自体やっていないものもあるので、調整が必要と考えている。数値は、あまりにも達成できていなければそのままにすることも考えられるが、基本的には見直したいと考えている。

【吉井副会長】見直しは改めてされるのか。

【事務局】他の計画で決められている数値は、それとの整合性が必要と考えている。

【吉井副会長】父子手帳の配布を止めたことは聞いていたので知っているが、これを見ただけでそれがわかるかどうか疑問である。どこかに書いておく等、廃止されたことがわかるほうが良い。

【事務局】26 ページに記載しているが先のページなので、このページだけ見てわかるようにしたほうが良いと考えている。

【事務局】市区町村の総合計画でも指標や目標値は時代で変遷していくものになる。例えば「女性委員のいる審議会の割合」の目標値を 100%にしているが、例えば土地区画整理審議会では地権者の中から委員が選ばれている。昭和 22 年に廃止されている家督相続の名残もあり、男性が多い。そのため、土地区画整理審議会に女性が入ることはない。目標値を 100%にしているが、分母に女性が入っていないので絶対達成しない。目標達成が限りなくできないものになるので、その点も見直しが必要になる。素晴らしい目標を掲げてそこを目指すことは良いが、どうしても無理なものもある。事業自体がなくなってしまうこともあり、指標を変えていくことがベストと考える。

【吉井副会長】本来は、土地区画整理審議会の委員も男性が土地を代々引き継いでいく考え自体がどうなのか、ということが審議できればと思う。

【事務局】もちろんそれは根底にあるが、委員を選ぶ段階では無理である。将来的には 100%になっていくと思うが、土地区画整理事業が終わればこの審議会がなくなるので、突如として 100%になったりしてしまう。

【片上会長】妻が地権者である家は、少ない。

【事務局】まずない。

【片上会長】とって、目標値を下げてしまっは目標として成り立たない。何か他の方法で掴みようはないのか。

【事務局】例えば農業委員会にしても、農家代表者は男性が多い。「女性がいる委員会の割合」という指標自体の書き方を変えないと、どうしようもない。目標値を変えるのは、方向性が違う。

【片上会長】時代も変わるが、やり方も審議する必要があるかもしれない。

【田尻委員】3年単位で見直しをする等、常に社会環境は変化しているので、それに応じて議論していく必要がある。我々の経済環境も地球環境も変わっている。もう一つは法律を大前提としているが、法律は我々の生活の中の最低ラインである。男性も女性も活躍する社会にするためには、尊敬しあうことが大前提になる。そういうところから見直す必要がある。法律からではなく、まずは教育で権利やモラルの社会のラインをしっかり作っていくことが、一番大事になる。

自助・共助・公助の自助を頑張っている方はたくさんおられるが、いきなり次に公助になる。でも、真ん中には共助がある。我々自体がそこを認識しながら、やってはダメですよ、これやりましょう、というところのラインが必要である。それがなくなったと言っても良いかもしれない。日本のシステムの中でこの文化を復活させていかないと、もうもたない。そういう考え方がこれからは必要になってくる。

【事務局】計画でめざす姿で新たに触れている提案項目について。私が見た時は、どれがメインテーマかわかりにくいと思った。皆さんは載せたほうが良いと考えているのか、もう少しご意見をいただきたい。

【藤田委員】私はこのままで良いと思った。

【吉井副会長】今の内容はコンサルタントから提案いただいたものであるが、中身もこのままで良いのか。

【事務局】今まではなかった項目なので、そもそも載せないのか。どれが目標か、テーマがわかりにくくなっていると思う方がいないのであれば良いと思うが、見にくいのではないかと感じてしまった。皆さんはどう感じているか、ご意見を聞きたい。

【田尻委員】確かに文章も大事だが、今の人は文章を読まない。わかりやすいほうが大事だと思う。デザインセンスも必要である。

【古海委員】私は、新しいこの記述がすごく良いと思っている。計画でめざす姿は漠としたものに置き換えて、その中で要点として柱をもってきたら良いのではないのか。

【松延委員】柱の下に計画でめざす姿をもってきてはどうか。

【片上会長】施策の柱の下にもってきて、ダブルタイトルのようにするのか。

【吉井副会長】そのほうがわかりやすい。基本方針としては精華町がどうすべきかがあり、計画でめざす姿は精華町民がどうなるか、セットであるほうがわかりやすい。

【片上会長】上にあげるか、下にさげるか。

【吉井副会長】全体を見ると上のほうが良いかもしれない。

【片上会長】事務局で検討願いたい。

【林田委員】基本方針がもう少し大きいほうが良い。基本方針をもっと目立たせる必要があるが、四角枠がどうしても目に入ってしまう。

【片上会長】文字が薄いところと濃いところがあるが、色を使うのか。

【事務局】元々カラーのものを白黒印刷した為に、薄く見えてしまっている。

【片上会長】仕上げのところでイメージが変わるかもしれない。カラーで表記されると、このままでも良いかもしれない。

【事務局】それと、本当はページがこれでいっぱいになる。資料は縮小していることもあり、見にくい。工夫したい。

【吉井副会長】基本方針1の下に計画でめざす姿を載せるというご意見があるので、それをセットにすればするほど基本方針の文字が小さいことが目立つ可能性がある。全体のバランスを見てもらって。

【片上会長】それか、色をきちんと変えてもらうか。そうすると、強調される。

【吉井副会長】基本方針のほうが、計画でめざす姿よりも大事にするべき文言だと思う。

【片上会長】それでは次に、(2)「令和5年度男女共同参画推進事業実施報告」について、説明願う。

【事務局】＜令和5年度男女共同参画推進事業実施報告について説明＞

【田尻委員】人数に限りがあるので、優先順位をつけていく必要がある。できなかったから悪いのではなく、そういうことも含めて説明があれば良いと思う。

【藤田委員】未達が目立ってしまうが、新型コロナウイルス感染症、父子手帳配布の廃止等の背景を説明した部分がないと、恐らくこれを見ただけではほとんど達成していないとなる。この場にいる皆さんはわかっても、精華町民の方に説明できる資料があれば良いのではないか。母子手帳の登録者数も割合にしたほうがわかりやすいのではないか。冊数だけ出されても、それが適正な数なのかどうかわからない。

【事務局】24ページからの「第2次計画の評価と課題のまとめ」に一定載せている。

【藤田委員】見る人が一目でわかるようにしたほうが良いのではないか。

【事務局】先ほど吉井副会長からご指摘いただいた父子手帳の件もあったので、注釈を入れる等は要検討だが、このページだけを見て何か理由があることがわかるように工夫したい。

【神吉委員】後ろに説明があるなら、不要ではないか。

【吉井副会長】順番を変えるなり、何ページ参照くらいは最低でも付けたほうが良い。

【田尻委員】行政としてはできなかったことに工夫が必要である。

【事務局】指標の達成状況の表中のバーの部分は何のことかわからないので説明を入れて、表の中で完結するようにしたい。

【田尻委員】男女共同参画と同時に少子化対策がある。女性が社会進出していないといけませんが、子育てもしっかりしてもらわないといけなく状況があり、相当負担がかかっているのではないかと。そういうことも含めて、行政の事業も工夫が必要になってくる。女性は一体何を優先的にしていくべきなのか、これから大きな社会の課題になってくる。社会が一緒になって子育てをする、産みやすい環境をつくるために企業も努力するし、社会も努力してほしいというところも含めて訴えていかないと、個人に全部負担がかかることになってはいけません。

【吉井副会長】男性も子育てに参画しやすいこともベースで考えていくことが前提だと思う。

【田尻委員】そういうことも含めて提案していかないと、女性個人に負担をかけていくことになる。温かみのある社会をつくることで、産みやすい、育てやすい、女性が社会に進出しやすい環境づくりがこれからは大事になる。

【片上会長】それから、女性管理職や首長が増えることも相まってくる。男の考えだけで今は進んでいる。

【田尻委員】女性のリーダーに出てもらわないと。こういう社会にしていこうという提案をしていかないといけない。

【吉井副会長】そういう意味では、基本方針5の「町男性職員の育児休業取得率」が100%にならないことが、納得いかない。皆が目指す目標になってほしい。そもそも目標値が低い。女性は100%取得すると思う。個々の事情もあるが、男性も100%を目指して、育児に参加して当たり前ということを役場から発信するこ

とで、認識を広げていけるのではないか。

【事務局】これも指標としてどうかと考えている。例えば、この年に子どもが生まれた男性職員が1人だったとしたら、その人が取得すれば100%になる。その人が取得しなければ0%になる。指標に対して実績値がぶれすぎる。89%だったり、急に0%になっていたりする。だんだん目標値に向かって上がっていくイメージにならない。

【吉井副会長】でも、女性だったら常に100%である。男性も常に100%にしてほしい。

【事務局】当然強制するものではないので、分母が多くてずっと上がっていくような指標であれば、目標値を立てて頑張っているイメージがわくが、今年100%、来年0%、0%、100%のようになってしまう。

【藤田委員】「何人分の何人」と併記したら良いのではないか。

【吉井副会長】取得しない選択肢は役場にはないくらいのベースにはならないのか。

【事務局】ずっと100%になれば、ここに目標値をあげている意味がなくなってしまう。

【吉井副会長】そこまでいっていないので、89%とか22%だったりする。

【事務局】だから、指標のあり方を考えないといけない。

【吉井副会長】全員が取得することをベースにしてほしい。

【事務局】そうなるところに目標値をあげていく意味がなくなるので、指標のあり方を考える必要がある。

【吉井副会長】指標などがなくても男女平等であることが目標なので、10%にしていることが低すぎると思う。

【事務局】10%にしていることが、そもそも間違いである。分母が100人いて、その1割に取得してくれということであれば10%で良い。子どもが生まれる職員が100人もいるわけがない。藤田委員がおっしゃったように、分数で分母と分子があるほうがわかりやすい。

【片上会長】目標をパーセンテージ表示ではなく、基本的には何人のうち何人という表記だけで良いのではないか。例えば5人のうち4人が取得したという表記が一番わかりやすいかもしれない。

【田尻委員】トップがそうしなさいと言うと、そうなる。会社でもそうである。

【吉井副会長】女性は選択肢なく育児休業を取得するのに、男性だけ取得するかしないか2つの選択肢が出てくるのが疑問である。役場はパイオニアになってほしい。ここは全員取得することをベースにしたほうが良い。男性が育児休業を取得することで、働き方や仕組みが変わってくると思う。

【片上会長】目標値の設定の仕方を検討願いたい。

【田尻委員】結婚観、消費行動も変わり、社会が変化している。

【吉井副会長】職員の給与の男女の差異の情報公表2.「任期の定めのない常勤職員」に係る役職段階別及び勤続年数別の情報(1)役職段階別のうち、「本庁部局長・次長相当職」の男女の給与の差異が空白になっているが、該当なしなのか。

【事務局】そうである。

【吉井副会長】バーが入っているのは、差異はないということか。空白とバーの違いがわからない。

【事務局】基本的に地方公務員は男女全く同じ条件になっている。例えば勤続年数に差があるのは、男性は中途採用が多いので勤務年数が1～5年でも年齢の高い人が多い。課長職になると管理職手当がつくので給与が高い。去年も採用時の年齢制限を50歳まで上げた。勤務年数がまだ1年でも、年齢が高い人は前歴換算をしてみているので、1年目の新卒と50歳の人では当然給与が違う。基本的に地方公務員は男女で給与が変わることは一切ない。

【吉井副会長】女性が中途採用を受けるとなると、例えば子育て中の期間からの採用になるため、キャリアアップ採用ではないから差が出てしまうのか。

【事務局】ここ5年くらい女性も多く採用している。ただ、男性のように40歳の人などは来ない。例えば25～26歳で銀行に勤めていた人が来るので、差が出ている。ここ数年は男女同じ人数を採用しているが、年齢は女性のほうが若い人が多い。勤続年数で見ると、年齢で差が出ている。

【吉井副会長】例えばずっと継続して勤めているのか、そうでないのかくらいは分けられそうだが。

【片上会長】定期採用と不定期採用という表記をしたら、問題になるのではないか。

【事務局】新卒で差が出るのは、高卒と大卒の違いになる。ここ最近では中途採用が多いので、顕著に差が出ている。

【片上会長】企業でも中途採用が多いのではないかと。

【田尻委員】ここ最近では本当にそうである。

【吉井副会長】逆に言うと、辞める人が多い。

【片上会長】仕事の斡旋のCMが多い。それだけ需要が増えている。

【田尻委員】年齢も国籍も関係なく雇用していかないといけない。ここに上がってくるのは、ほとんどがきちんとした生活をしている人ばかりで、ニートやフリーランスで働いている人達はここの枠にはまらない。枠にはまらない人達を一体どう救済していくのか考える必要がある。男女だけでなく、社会にもっと入っていないといけない。もう一つは高齢者である。企業がいきなり高齢者を雇用することは難しいので、税金を使っている公務員が上手く使ってほしい。

【神吉委員】精華町は貧困層対策をされているのか。

【事務局】一番住民に近いところにいる役所なので、相談を受けることが多い。手を差し伸べる事業は、精華町独自のものも含めてある。人権サイドに回ってくるような報告は目に留まるが、福祉サイドのものは目に留まらない。それにしても、数が多い印象がある。きめ細かい対応をさせていただいている。

【古海委員】住民の相談窓口として、子育て中は精華町子育て支援センターがあり、高齢者は精華町地域包括支援センターが包括的な相談窓口として設置されている。働き盛りで人権問題等諸々絡んでくる世代の相談窓口は、人権で受けていくとイメージしたら良いのか。

【事務局】子育ても福祉もどこの窓口に来られても一旦お話しをお伺いして、対応するようにしている。総合窓口の制度を設けているので、あちこち課をふるようなことはしていない。どこに対して助けを求めてこられても、きちんと対応する。

【古海委員】住民側からは、どこに相談に行けば良いのかわからないとよく聞く。

【事務局】精華町役場は独自の課名を勝手に付けているので、気にせず来てもらいたい。

【田尻委員】行政も民間もそうだが、総合的に受け入れられる体制を作る必要がある。

【松延委員】精華町つながりサポート事業の一環で、「ここいこ広場」を実施している。

相談事が最初からある人は良いが、モヤモヤしながら過ごしている人は、居場所づくりからスタートだと思う。役所に行くのはちょっと、という人にも来てもらいたい。

【片上会長】以上で今日の審議は終了したい。

【事務局】これをもって第2回男女共同参画審議会を閉会する。

3. 閉会